



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# OECエレクトロニクス

1987年4月下旬、大阪エレクトロニクス株式会社（OEC）のアメリカ子会社、OECエレクトロニクスの上級副社長スタンレー・ブレイクが、親会社のOEC、OECエレクトロニクス、同社の前社長および現社長らに対し訴訟を起こし、  
2000万ドルの損害賠償を求めた。更に、5月初旬、OECエレクトロニクスの副社長ヘンリー・バウアーが、3800万ドルの損害賠償を求めて同様の訴訟を起こした。訴訟の主たる理由は、彼らがOECエレクトロニクスの元社長菊野慎太郎と文書及び口頭で結んだ雇用契約に会社は違反したというものであった。

大阪エレクトロニクスが1978年に買収したエレクトロニック・リレイ社は、  
1981年に大阪エレクトロニクスの100%子会社、OECエレクトロニクスとなり、大阪エレクトロニクスの半導体部門の幹部菊野氏が社長兼チーフ・エグゼクティブ・オフィサー（CEO）として就任した。菊野氏は1985年1月に退社して、アメリカの半導体関連メーカー、エレクトロジック社の日本子会社の社長に転じた。

現地の新聞は訴訟事件について次のように報じた。

### 経営幹部が自社を告発

シリコンバレーのある会社の役員が自分の会社を相手取って2000万ドルの訴訟をおこした。この会社は日本の巨大電子機器メーカーの子会社で、この役員によるとアメリカ人を追い出して日本人を雇い入れようとしており、これに反対したこの役員を解雇しようとしているという。

OECエレクトロニクス社の戦略的計画部門担当上級副社長スタンレー・ブレイクがその人で、訴訟によると、このアメリカの会社は大阪にある親会社大阪エレクトロニクスの役員によって「ジャパナイズ」されてしまったが、親会社は決してそんなことはしないとこれまで再三ブレイクに約束してきたという。訴訟は金曜日にサンタ・クララ郡高等裁判所に正式に提訴された。

シリコンバレーに本社のあるOECエレクトロニクス社はスポークスウーマンの

---

このケースは クラス討議のために作製したもので、経営上の問題の適切または不適切な処理を例示しようとするものではない。ケース中の固有名詞は仮装されている。1990年4月作製